

国語 第5学年 人物像について考えたことを伝え合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の11月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

人物相互の関係と心情を場面の描写から捉え、大造じいさんの人物像を考える。行動の変化と情景の表現が、読む人にどのような印象を与えるかを検討する。単元の終わりに残すのは、人物像の説明文。関係する相手、行動と心情、情景の表現、人物像と根拠を整理する。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)エ	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

単元の目標

場面の展開と描写の関係を捉え、文章の構成や展開を理解できる。描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①場面の展開と描写の関係を捉え、文章の構成や展開を理解している。 （〔知識及び技能〕(1)カ）	①「読むこと」において、描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えている。（C(1)イ・C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全7時間（読む7）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、大造じいさんへの初めの印象を記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○相手との関係と場面ごとの行動を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3	○心情に関わる行動と情景を読み合わせる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○前後の場面を比べ、人物像を表す言葉と根拠を説明する。	思①（発言・学習記録）
	5	○人物像について文章を書き、表現の効果も確かめる。	学習状況を見て支援する。
	6	○文章を交流し、異なる人物像の根拠を読み直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	7	○初めの印象からの変化と描写の読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」 【めあて】人物相互の関係と心情を場面の描写から捉え、大造じいさんの人物像を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・行動だけでなく周囲の描写にも気持ちが表れているようだ。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・行動だけでなく周囲の描写にも気持ちが表れているようだ。 ・同じ相手への態度が前後で変化している。 ・強いという言葉だけでは説明しきれない。	行動と情景を対応させた後、その場面の前後を読む。情景の印象が異なる場合は語句の根拠を比べる。人物像の言葉を選ぶ際は、反対に見える行動も検討する。 想定する難しさ：最後の心情だけで人物像を作る。情景を感情と機械的に一対一で対応させる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・強いという言葉だけでは説明しきれない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考え

を並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、最後の心情だけで人物像を作る。情景を感情と機械的に一対一で対応させる。この場合は、行動と情景を対応させた後、その場面の前後を読む。情景の印象が異なる場合は語句の根拠を比べる。人物像の言葉を選ぶ際は、反対に見える行動も検討する。おおむね満足できる状況は、描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

人物像の説明文。関係する相手、行動と心情、情景の表現、人物像と根拠を整理する。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。

(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

